

主体的にコミュニケーション能力の向上を図る生徒の育成 ～段階的な帯活動「Speaking Challenge」における指導と評価の工夫を通して～

特別研修員 外国語 長竹智宏 (中学校教諭)

生徒の実態

- コミュニケーション活動に意欲的に取り組める一方で、コミュニケーション能力を向上させようという意識は低い。
- 活動毎に提示された目標を意識できても、単元や学期、学年、中学校3年間といった長期的な見通しは特にない。

目指す生徒像

- 提示されたコミュニケーション能力のレベルを意識して、自分に合う目標を定めつつ、向上を図ろうと努力できる。
- 先にある主な学習活動に見通しをもち、それを意識して必要な力を高め、学びの高まりを実感することができる。
- グローバル化社会の中で、自律した英語学習者として、中学校卒業後も主体的に英語を学び続けることができる。

学習の見通しをもち、
単元到達目標を意識

帯活動毎に目標
設定と自己評価

主体的な学習

スピーキングテスト
単元末タスク

単元の学習

見通しや
目標がないと向上
しにくい

学期に1回の重点単元モデル

中学校三年間を通して継続

CAN-DOリスト 1年 話すこと
「自然な会話の流れに気をつけ、相手と問答を続けることができる。」

生徒配付用CAN-DOリストに
学期毎の重点単元を併記

単元毎の「振り返りシート」
で学習状況を自己評価

①帯活動「Speaking Challenge」と「評価カード」

・授業冒頭の10分程度の学習を単元を通して段階的に高める

Speaking Challenge II (B: 話題に応じた疑問文) 1- No. () Name: _____

★Q&A形式で、()の中の語句は置きかえ可。()の中の語句は省略可。

Topic No.	Questions → Answers
1	Do you like [school lunch / Japanese food / natto]?—Yes, I do. / No, I don't.
2	What [school lunch / Japanese food] do you like?—I like []
3	Do you cook at home?—I often cook at home.
4	Are you good at cooking?—Yes, I am. / No, I'm not.
5	Where is your favorite restaurant?—It's [Cocos].
6	Do you like / play / listen to music?—Yes, I do. / No, I don't.
7	What kind of music do you like / play / listen to?—I [listen to] []
8	Are you good at music?—Yes, I am. / No, I'm not.
9	Who is your favorite musician?—[The Beatles] is.
10	Whose songs do you like?—I like [Fukuyama Masaharu's] songs.
11	Do you [play / like] sports?—Yes, I do. / No, I don't.
12	What sport do you [play / like]?—I like []
13	When do you [play / practice] it?—I []
31	What is your favorite Japanese thing?—It's [sushi] / [Sushi] is.
32	Where is your favorite Japanese place?—It's [Kyoto] / [Kyoto] is.
33	Who is your favorite Japanese person?—[Mr. Abe] is.
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	

コミュニケーションレベル STEP 9
話題に応じて、自然な流れとなる問答が適切にできる。

コミュニケーションレベル STEP 5
Q&Aの言葉を入れ替えながら、適切に問答できる。

既習言語材料をQ&Aで「Speaking Challenge」にリスト化し、単元末タスクやスピーキングテストを見すえ、ペアで練習する

Speaking Challenge II 評価カード

授業や家ででの練習後に自己評価(相互評価)を書き、ステップアップを図ろう!

回数	日付	達した段階	今回、意識したこと	次回、意識したいこと
1	12/30	3	Read & Look up 単語	又や言葉を入れたい単語
2	1/1	4	Q&A言葉を入れ	英語
3	12/3	4	単語を入れ	スピーキング
4	12/4	5	単語を入れ	答える時の言葉
5	12/5	5	単語を入れ	相手の答えに反応
6	12/11	5	単語を入れ	相手の答えに反応
7				
8				
9				
10				

毎回の帯活動後に、自己評価または相互評価し、自分が達した段階(STEP)や「今回、意識したこと」、「次回、意識したいこと」を「評価カード」に記入し、形成的評価をしていく

単元末タスクやスピーキングテストへの見通しをもつ

授業学習の達人を目指し、表現力を高めよう!

友達紹介の英文文と1分間スピーチ
ALTの先生と1分間のパフォーマンステスト
ALTの先生へのインタビューと記事作成(Q&A形式)

授業でも家ででも練習を重ね、ステップアップを図ろう!

自分の感想等を加えつつ、1分間問答を適切に継続できる。

Step 9 話題に応じて、自然な流れとなる問答が適切にできる。

Step 8 アイコンタクトや反応を心がけて、生き生きと適切に問答できる。

Step 7 様々な種類の疑問文を使いながら、適切に問答できる。

Step 6 質問したい文や言葉を選びながら、適切に問答できる。

Step 5 質問したい文や言葉を選びながら、適切に問答できる。

Step 4

Step 3

Step 2

Step 1

ALTの先生と1分間のパフォーマンステスト (実施日 /)

意欲・態度 アイコンタクト	5	4	3	2	1
反応等(⊕ -)	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕

「評価カード」にリスト化されたSTEP1～10のコミュニケーションレベルを意識し、帯活動毎に向上を図る

スピーキングテストの評価欄

②単元末タスク(4技能を統合した言語活動)

Let's introduce! 先生へのインタビューを準備しよう!

1. 1) Name: _____

2. What do you like to eat? _____

3. What do you like to do? _____

4. What do you like to drink? _____

5. What do you like to wear? _____

6. What do you like to do in your free time? _____

7. What do you like to do in your free time? _____

8. What do you like to do in your free time? _____

9. What do you like to do in your free time? _____

10. What do you like to do in your free time? _____

書く

話す

聞く

読む

聞き取りメモを生かし、ALTとの対話文を考え、リプロダクション(再現)し、ペアで読んだり、発表したりする

帯活動での練習を生かし、ALTに話題に応じた質問を考え、1分ずつグループ毎にインタビューし、聞き取ったことをメモする

③スピーキングテスト

S.O.E. <スピーキングテスト> 評価用紙(1年3組)

1 態度: アイコンタクトをとりながら、反応等も加えながら積極的に質問できたか。
Eye Contact—Great5 Good4 So-so3 Not good2 Bad1 Reaction+

2 表現: 自然な会話の流れを意識し、適切な表現・音声で質問を続けることができたか。
Natural Succession—Great5 Good4 So-so3 Not good2 Bad1 Good Pronunciation+

No.	氏名	Attitude		Expression	
		Eye Contact	Reaction	Natural Succession	Good Pronunciation
1		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	
2		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	
3		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	
4		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	
5		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	
6		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	
7		(5 4 3 2 1)		(5 4 3 2 1)	

単元末タスクのグループでのALTへのインタビューを生かし、個別にインタビュー(1人1分間)

態度(アイコンタクトや反応)、表現(自然で適切な問答、音声)で評価

成果

- 帯活動では・・・評価カードの達した段階の記録や自己評価の記述から、自らを高めようとする主体的な姿勢がほぼ全員の生徒に見られた。
- 単元末タスクでは・・・帯活動で高めたコミュニケーションスキルを発揮し、ほとんどの生徒が学びの高まりと自らの向上を実感できた。
- スピーキングテストでは・・・帯活動や単元末タスクでのコミュニケーション能力の向上が、成果としてほとんどの生徒の取組に表れた。

課題

- 評価カードに載せる10段階のコミュニケーションレベルを、CAN-DOリストの学年毎の「話すこと」の到達目標に合わせて調整することが必要である。
- 評価カードに自己評価を書くことの負担や効果を検討し、書式の工夫や、分かったことを英文で書く方式の導入が、今後必要である。